

## 教育学概論における「教育思想家」への理解を深める 紙芝居作成活動の概要と課題

### An Overview and Challenges of a Kamishibai-Making Activity to Deepen Students' Understanding of Educational Thinkers in "Introduction to Education"

宇田 響<sup>\*1</sup>・紺谷 遼太郎<sup>\*2</sup>  
Hibiki UDA Ryotaro KONYA

#### Abstract

This paper reports on a kamishibai-making activity implemented in an "Introduction to Education" course with the aim of deepening students' understanding of educational thinkers. In this activity, students worked in pairs, selected one thinker, researched his or her ideas and achievements, and created a kamishibai performance targeted at elementary school children. The students then presented their kamishibai to their peers. A post-activity questionnaire revealed that many students considered the activity appropriate for learning about educational thinkers. Their reasons were grouped into three categories: the distinctive advantages of kamishibai as a medium (e.g., the use of pictures and stories that make complex ideas easier to understand), the necessity of devising effective ways of expression and communication in order to teach others, and the promotion of active learning, which encouraged students to go beyond passive knowledge acquisition and deepen their understanding. At the same time, some students pointed out challenges, such as the heavy workload of preparing illustrations and scripts, which sometimes limited the time available for studying the thinkers themselves. These findings suggest that kamishibai-making has educational value as a method for learning about educational thought, while improvements in workload distribution and supplementary activities are needed.

#### 1. はじめに

くらしき作陽大学子ども教育学部（以下、本学）で開講されている「教育学概論」は、厚生労働省が定める保育士養成課程における「保育の本質・目的に関する科目」、および文部科学省が定める教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）」に該当する。すなわち、本学において保育士資格、教員免許状（幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状）を取得するための必修科目である。1年次に開講されており、将来保育者・教育者を志す学生にとって、専門的な学びの土台を築くための導入的な役割を担っている。教育の意義や基本的概念、教育の歴史や思想の流れに加えて、いじめ、不登校、貧困など、現代の多様な教育課題について学ぶことを通して、教育の理念や本質についての基礎的な理解を深めることを目的としている。

こうした科目における授業実践については、伊住・田邊（2020）や渡邊（2016）などにおいて検討されている。伊住・田邊（2020）は、環太平洋大学で開講されている「教育の思想と原理」において、グループでの活動を軸に教育の歴史や思想に対する理解を深めるといった授業実践の成果と課題について報告している。また、渡邊（2016）は、就実大学で開講されている「教育学概論」において、「桃太郎」を素材に日本の近現代における子ども観の変遷を考察するといった授業実践の意義や成果を報告している。これらの実践は、学生に教育の理念や本質、歴史や思想に関する理解を促す上で、有益な示唆を与えるものである。

上記のように多様な授業実践が展開されている中で、本稿では、第一筆者が担当する「教育学概論」の授業実践の一例として、「教育思想家」への理解を深めることを目的とした紙芝居作成活動の概要

<sup>\*1</sup> くらしき作陽大学健康スポーツ教育学部、助教（Kurashiki Sakuyo University, Faculty of Health and Sports Education, Assistant Professor）

<sup>\*2</sup> 金沢学院大学教育学部、助教（Kanazawa Gakuin University, Faculty of Education, Assistant Professor）

を報告する。また、実際に紙芝居作成活動に取り組んだ学生が当該活動をどのように評価したのかについても、アンケート調査の結果をもとに報告する。

## 2. 授業の概要

本節では、「教育学概論」の概要を整理しておきたい。本学の「教育学概論」は、文部科学省が定める教職課程コアカリキュラム、および厚生労働省が定める指定保育士養成施設指針に示されている内容を踏まえて開講されており、「教育の意義や基本的概念を踏まえ、教育を成り立たせる諸要因（子ども、教師、学校、家庭、地域など）との関係について理解する」「教育の歴史と思想の流れを踏まえ、現代の教育との関わりについて説明することができる」「現代の多様な教育課題について関心を持ち、問題意識を高めることができる」「現代の多様な教育課題について考察し、口頭や文章などで表現することができる」といった四つの到達目標を設定している。

表1には、到達目標に基づいて計画した全15回のテーマと授業内容の概要を示している。第1回から第6回には、「教育思想家」に対する理解を深めることを目的に、ペア単位で紙芝居の作成・発表に取り組む活動を設けている。この活動の詳細については、次節にて報告する。第7回以降では、教育の意味や目的をはじめ、学生が興味・関心を持ちやすい現代の教育課題についても取り上げている。いじめや不登校はもちろん、子どもの貧困や学力格差といった問題も取り上げることで、「教育」を様々な視点から考えることができるようにしている。なお、第7回以降の授業は、講義形式を基本としつつも、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなども取り入れ、学生が主体的に学習に取り組めるように運営していることを記しておきたい。

表1 全15回のテーマと授業内容の概要

	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育に関する思想（導入編）	教育思想家（ルソー、ペスタロッチなど）について、ペアで調査・共有を行う。
第2回	教育に関する思想 （ペア活動編：前半戦）	調査内容を整理し、紙芝居の構成案を検討・設計する活動を行う。
第3回	教育に関する思想 （ペア活動編：中間戦）	紙芝居の構成を調整し、材料を用いて実際の作成に取りかかる。
第4回	教育に関する思想 （ペア活動編：後半戦）	紙芝居の仕上げと発表練習を通して、表現の工夫を加える。
第5回	教育に関する思想 （プレゼンテーション編：前半戦）	前半戦を担当するペアが全員の前で紙芝居を行う。
第6回	教育に関する思想 （プレゼンテーション編：後半戦）	後半戦を担当するペアが全員の前で紙芝居を行う。
第7回	「教育」の意味と目的	教育とは何かを問い直し、自らの経験をもとに教育の意味や目的、意義について考察する。
第8回	人間の発達と教育、「子ども」観と教育	発達段階や「子ども」観の変遷を踏まえ、教育と子どもの関係を多面的に考える。
第9回	教育制度・法規・行政の基礎	教育制度や法規、行政の基本を学び、学級制度の歴史と課題について理解を深める。
第10回	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷を通して、これからの学校教育のあり方について考える。
第11回	教師の職務と勤務実態 関係機関との連携の必要性	教師の職務や働き方を理解し、関係機関との連携の必要性について具体的に学ぶ。
第12回	学力調査の現状と課題	学力の概念を確認し、各種調査結果をもとに、日本の現状や学力格差の是正策を考察する。
第13回	子どもをめぐる諸問題：いじめ、不登校	いじめ・不登校の現状と背景を学び、教師の対応のあり方を検討する。
第14回	子どもをめぐる諸問題：貧困 （家庭との連携のあり方）	貧困の実態を理解し、家庭との連携を踏まえた対応のあり方を考察する。
第15回	授業のまとめと振り返り	授業を通して得た学びを振り返り、教育の意義や役割を再確認する。

### 3. 紙芝居作成活動の概要

本節では、紙芝居作成活動の概要について報告する。当該活動では、抽象的ゆえに難解なイメージを持ちやすい「教育思想家」について、学生が物語の構成を行い、他者に伝えるという協働的・実践的な学びを展開している。紙芝居という方法を取り入れたのは、教育思想家の抽象的な理論を、物語形式と視覚表現を通じて再構成し、「教育」の初学者であっても理解しやすくするためである。また、小学生を対象に発表することを想定することで、学生は専門用語を平易な言葉に置き換える必要がある。そのため、教育思想家の理解に加え、わかりやすく伝える力を養う点でも意義がある。さらに、協働的・実践的な学びをベースにすることで、学生の教育思想家への興味・関心を喚起し、理解を深められるよう意図して行っている。

当該活動で取り上げる教育思想家については、表2に示した通りである<sup>1)</sup>。世界初の絵入り教科書を編纂したコメニウスをはじめ、消極教育を唱えたルソー、全人教育を重視したペスタロッチ、さらには脱学校社会の必要性を説いたイリイチなど、教育思想家の中でも代表的な人物を扱っている。

表2 紙芝居作成活動で取り上げた教育思想家

教育思想家名	キーワード	関連著書
コメニウス	汎教育、実物教授、世界初の絵入教科書	『大教授学』『世界図絵』
ルソー	自然主義、消極教育、子ども観	『エミール』
ペスタロッチ	全人教育、直観教授、徳育	『隠者の夕暮』『リーンハルトとゲルトルート』
フレーベル	恩物、遊び、世界最初の幼稚園	『人間の教育』
デューイ	経験主義、問題解決学習、民主主義	『学校と社会』『民主主義と教育』
モンテッソーリ	敏感期、感覚教育、自己教育	『モンテッソーリ・メソッド』『子どもの発見』
イリイチ	脱学校、学習ネットワーク、価値の制度化	『脱学校の社会』『シャドウ・ワーク』
シュタイナー	人智学、自由ヴェアルドルフ学校、自由教育	『一般人間学』
パーカースト	ドルトンプラン、自律学習、契約	『ドルトンプラン』
フレネ	自由作文、学校間通信、協同的な学び	『学校における印刷』『民衆教育学の誕生』

前節でも述べたように、当該活動は全6回で構成されている。第1回「教育に関する思想(導入編)」は、ペア単位で担当となった教育思想家について調査・共有する時間である。担当の教育思想家がどのような時代を生きてきたのか、教育についてどのように考えてきたのか、さらには、どのようなことを実践してきたのかなどを、本や論文をもとに調査し、ペアで共有する。ペアで共有することで、自分自身が理解しきれていないところを見直すことができる。そして、第2回「教育に関する思想(ペア活動編:前半戦)」には、ペアで共有したことをもとに、紙芝居の構成案を検討、設計することになっている。図1は、実際に学生が作成した構成案の検討メモである<sup>2)</sup>。学生は10枚を目安とし、ペアでどのようなイラストを描くのか、どのようなストーリーにするのかを話し合う。そうした話し合いを踏まえて、どのようなセリフを付けるのがよいのかを考える。

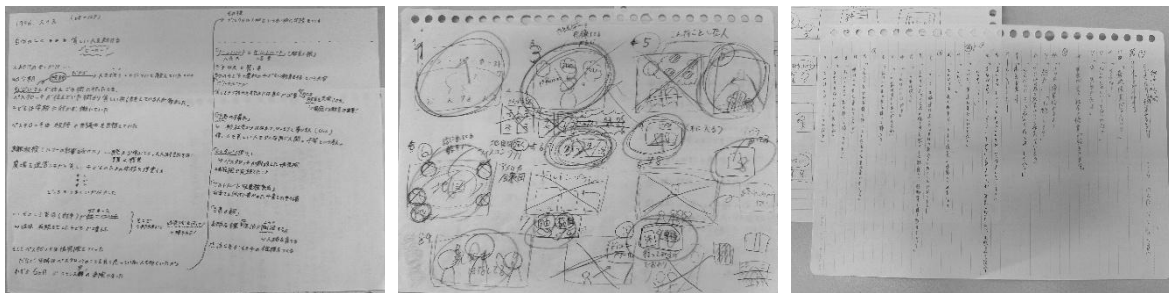


図1 紙芝居構成案の検討メモ

第3回「教育に関する思想(ペア活動編:中間戦)」は、構成案の検討、設計の際に作成した資料をもとに、実際に紙芝居の作成を行う時間である。学生は表面にイラストの下描き・清書を行った上

で、色を塗る作業を行う。図2に示すように、紙芝居のイラストを描く行為は、教育思想を視覚的にどのように表現するのかということを考える重要なプロセスである。この作業が終わり次第、裏面にセリフを書いていくことになる。特に裏面にセリフを書いていく際に、教員側から抽象的な言葉は可能な限り具体的な言葉に置き換えるよう指示することが重要である。具体的な言葉に置き換える作業を通して、学生の本質的な理解の促進が期待されるからである。そして、第4回「教育に関する思想（ペア活動編：後半戦）」では、完成した紙芝居をもとに発表練習を行う。図3は、発表練習の際の様子を示したものであり、学生は声の工夫（抑揚、間の調整など）やイラストの見せ方（紙をめくるタイミングやそのスピードなど）といった点に注意し、練習を行っている様子がうかがえる。そうすることで、他の学生の興味・関心を喚起し、教育思想家に対する理解を深めることができるようにしている。

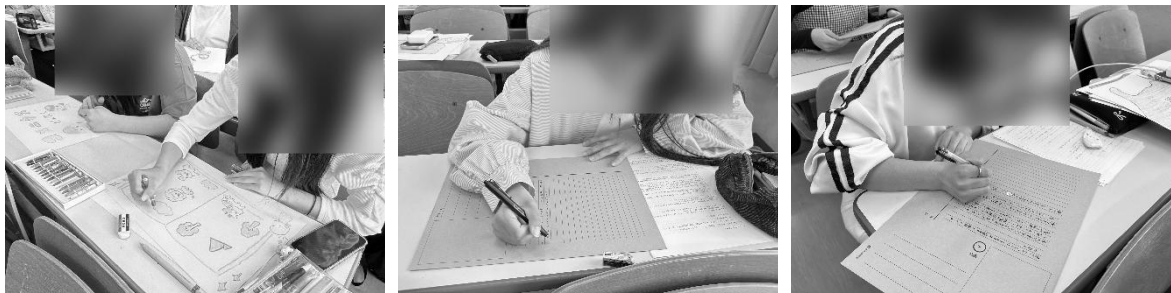


図2 構成案に基づいた紙芝居作成の様子



図3 紙芝居の発表練習の様子

第5回「教育に関する思想（プレゼンテーション編：前半戦）」及び第6回「教育に関する思想（プレゼンテーション編：後半戦）」は、受講生全員の前で紙芝居の発表をする時間である。図4に示すように、学生はペアごとに紙芝居を発表し、教育思想家の特徴を他者にわかりやすく伝える工夫を凝らしていた。受講生全員の前で発表する機会であることから、学生は授業外での発表練習も重ねることになる。いずれの受講者も、多くの学生が授業外で紙芝居の作成、発表練習といった学習に取り組んでいることを理解しているため、熱心に発表を聞くことができる。さらに、他のペアの発表を聞く際には、「理解記録ワークシート」に取り組むようになっている（図5参照）。学生は、教育思想家



図4 紙芝居の発表の様子

の考え方を一言でまとめた上で、なぜそのように思ったのかを書く作業に取り組む。そうした作業に取り組むことによって、各ペアが発表で最も伝えなかったことは何かを捉え、教育思想家に対する本質的な理解を深めることができるようにしている。

**教育思想家の紙芝居発表を通して**  
— 発表ごとの理解記録ワークシート —

学籍番号 (                    )  
氏名 (                            )

**【記録の仕方】**  
各グループの紙芝居発表を聞いた後、その教育思想家の考え方を「一言で」まとめてください。また、なぜそう思ったのかをあなたの言葉で簡潔に書いてください。(記入時間: 約 2 分)

**【記入例】**  
教育思想家名: フレーベル  
一言で表すと: 「遊びを通じて育つ教育」  
理由: 子どもの内なる力を引き出すために、遊びや手作業を大切にしていたから。

発表順	教育思想家名	この思想家の考え方を一言で表すと?	そのように考えた理由(簡潔に)
第 1 発表			
第 2 発表			

図 5 理解記録ワークシート

本節では、教育思想家の理解を深めることを目的とした紙芝居作成活動の概要を報告した。当該活動を通して、学生は教育思想家についての知識の獲得はもちろん、他者に「伝える」という目的意識のもとに構成を考え表現する経験を積むことができた。次節では、そうした活動を学生がどのように捉えているのかを、アンケート調査の結果をもとに検討することとしたい。

#### 4. 学生による紙芝居作成活動の評価

本節では、紙芝居作成活動に取り組んだ学生が当該活動をどのように評価したのかについて、アンケート調査をもとに整理する。アンケート調査は、Google フォームを利用し、2025 年 5 月下旬から 6 月中旬にかけて、「教育学概論」を履修している学生を対象に行った。回答者数は 44 名であり、履修者全体 (47 名) に占める割合は 93.6% である。なお、アンケート調査を実施する際には、調査の目的や内容、個人情報及び研究データの取り扱いなどについての説明を行った上で、書面にて同意をとっていることを記しておきたい。

まずは、学生が紙芝居作成活動に取り組み、教育思想家に対する理解をどの程度深めているのかをみていきたい。図 6 は、「自身 (他の受講生) が担当する教育思想家についての理解はどの程度深まりましたか?」という項目について、回答者に 4 段階 (「とても深まった」から「全く深まらなかった」) で尋ねた結果を示している<sup>3)</sup>。

図 6 (上段) をみると、「とても深まった」という回答の割合は 72.7%、「少し深まった」という回答の割合は 27.3% であることが読み取れる。「とても深まった」という回答の割合からもわかるよう

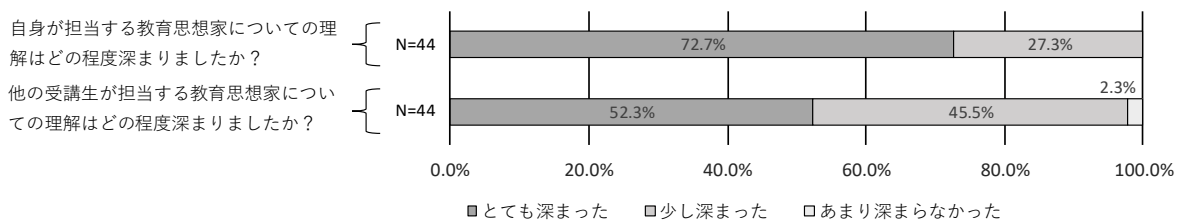


図 6 学生の教育思想家に対する理解の深化

に、多くの学生が、自身が担当する教育思想家についての理解を十分に深めることができているようである。

それでは、他の学生が担当する教育思想家についての理解は深まっているのであろうか。図 6（下段）をみると、「とても深まった」という回答の割合は 52.3%、「少し深まった」という回答の割合は 45.5%であるのに対し、「あまり深まらなかった」という回答の割合は 2.3%であることが読み取れる。図 6（上段）の結果と比べると、「とても深まった」という回答の割合が減っていることには留意しておく必要があるものの、半数以上の学生が他の学生が担当する教育思想家についての理解を十分に深めることができていることがうかがえる。

このように、学生は紙芝居作成活動を通して、教育思想家についての理解を深めているが、そうした理解を深める上で、そもそも紙芝居作成活動という学習方法が適切だと考えているのであろうか。図 7 は、「教育思想家に対する理解を深める上で、紙芝居作成・発表という学習方法は適切だと思いますか?」という項目について、回答者に 4 段階（「適切だと思う」から「適切だと思わない」）で尋ねた結果を示している<sup>4)</sup>。

図 7 をみると、「適切だと思う」という回答の割合は 77.3%、「少し適切だと思う」という回答の割合は 20.5%であるのに対し、「適切だと思わない」という回答の割合は 2.3%であることが読み取れる。「適切だと思う」という回答の割合からもわかるように、多くの学生は教育思想家についての理解を深める上で、紙芝居作成活動は適切だと考えていることがうかがえる。

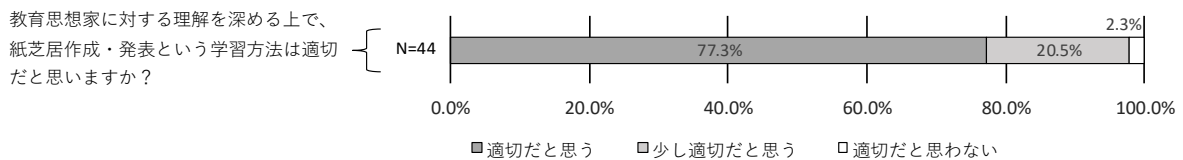


図 7 紙芝居作成・発表の適切性に関する学生の評価

先述のように、多くの学生は教育思想家についての理解を深める上で紙芝居作成活動は適切だと考えているようであるが、なぜそのように考えているのであろうか。アンケート調査では、先述の項目に回答した者に、自由記述欄を設け、その回答理由について尋ねている。本稿では、「適切だと思う」と「少し適切だと思う」という回答をした者の自由記述データを、KJ 法にて整理したものを示しておきたい。整理したところ、「紙芝居特有の効果」「表現・伝達の工夫」「学習理解の深化」といった理由に大別することができた。まずは、最も多く挙げられた「紙芝居特有の効果」という理由についてみていきたい。以下に、それに該当する代表的な記述を示した。なお、以降の自由記述は原文ママで示している。

- ・紙芝居を作ることで、人物の詳しい情報や調べてみないとわからない難しいことまで知ることができるし、人の紙芝居を聞くことで、本などで学ぶよりも物語形式で頭に入りやすいと思ったから。
- ・紙芝居の発表をすることで、見る人たちも絵と簡単な説明だからわかりやすい。
- ・紙芝居にすることで、理解しやすいだけでなく、楽しく学ぶことができるため。
- ・オリジナルの絵、ストーリーでその教育思想家についての流れを踏まえながら理解ができるから。
- ・長い文字で見ると、絵と一緒に教育思想家のしたことや思いなどがもっと詳しく伝わるから。

学生は、「見る人たちも絵と簡単な説明だからわかりやすい」と回答しており、絵による視覚的要素と簡潔な説明によって、理解が深まると考えているようである。また、「オリジナルの絵、ストーリーでその教育思想家についての流れを踏まえながら理解ができる」という回答からは、物語形式で学ぶことができる点を評価していることもうかがえる。このように、学生は「紙芝居特有の効果」と

いう理由から、教育思想家を学ぶ上で紙芝居作成活動を適切だと捉えているようである。

続いて、「表現・伝達の工夫」という理由についてみていきたい。以下に、それに該当する代表的な記述を示した。

- ・相手にわかりやすく教育学者を伝えるために、細かく調べたりしたから。
- ・子どもたちにわかってもらえるかなどを考えるから、よいのかなと思った。
- ・実際に周りに発表するので、教師の立場になって考えながら制作することができるから。
- ・紙芝居を作成するために思想家について調べ、それを小学生向けに要点がどこにあるか、わかりやすい言葉でどう伝えればいいのかを考えながら行ったため、自然に知識が身についたと思う。
- ・子どもに伝えるために言葉を簡単にすることで、自分自身にも入りやすかったから。

学生は、「子どもたちにわかってもらえるかなどを考えるから、よいのかなと思った」と回答しており、紙芝居の対象者を意識しながら学習を進めた点を評価しているようである。また、「小学生向けに要点がどこにあるか、わかりやすい言葉でどう伝えればいいのかを考えながら行ったため、自然に知識が身についたと思う」という回答からは、紙芝居の対象者を意識しながら学習を進めたからこそ、自身の理解が深まったと考えていることが読み取れる。このように、学生は「表現・伝達の工夫」という理由から、教育思想家を学ぶ上で紙芝居作成活動を適切だと捉えているようである。

最後に、「学習理解の深化」という理由についてみていきたい。以下に、それに該当する代表的な記述を示した。

- ・実際に自分で調べて、自分の言葉でまとめることで理解がしやすいから。
- ・受動的に学ぶのではなく、自ら皆に教えるために学んだため、より頭に入りやすかった。
- ・教育について詳しく知ることができ、自分たちが知らないことを知ることができた。
- ・発表する課題について調べ、どういう構成で作るのかを考えることで深く知り、知ろうとする意欲が上がったため。
- ・自分で積極的にその思想家について調べようとする意識向上につながるから。

学生は、「受動的に学ぶのではなく、自ら皆に教えるために学んだため、より頭に入りやすかった」と回答しており、受動的ではなく能動的に学習を進めることができたからこそ、自身の理解が深まったと考えているようである。また、「発表する課題について調べ、どういう構成で作るのかを考えることで深く知り、知ろうとする意欲が上がった」という回答からは、教育思想家に対する理解が深まるだけではなく、学習意欲も高まることが読み取れる。このように、学生は「学習理解の深化」という理由から、教育思想家を学ぶ上で紙芝居作成活動を適切だと捉えているようである。

なお、「適切である」と「少し適切である」と回答した学生の中には、紙芝居作成活動の肯定的側面を評価しながらも、課題を指摘する回答も見られた。例えば、「紙芝居のイラストや台本を決めるのが大変で、教育思想家について調べる時間よりも紙芝居の構成を考えている時間のほうが長かった気がします、紙芝居で聞く分、とても簡単にどんな人か、何をした人かがわかって良かったです」という回答が挙げられる。このように、一部の学生は教育思想家を学ぶ上で、紙芝居作成活動を適切だと認めつつも、準備の負担の大きさ、教育思想家を調査する時間の短さといった点に課題を感じているようである。

## 5. おわりに

本稿では、「教育思想家」への理解を深めることを目的とした紙芝居作成活動の概要を報告するとともに、そうした活動に取り組んだ学生が当該活動をどのように評価したのかを、アンケート調査の結果をもとに報告した。ここでは、アンケート調査の結果から得られた知見をまとめておきたい。

第一に、紙芝居作成活動を通して、多くの学生が、自身が担当する教育思想家についての理解を十分に深めていることが明らかになった。

第二に、紙芝居作成活動を通して、半数以上の学生が他の学生が担当する教育思想家についての理解を十分に深めていることが明らかになった。

第三に、多くの学生は、教育思想家についての理解を深める上で、紙芝居作成活動は適切だと考えていることが明らかになった。また、そのように考える理由としては「紙芝居特有の効果」「表現・伝達の工夫」「学習理解の深化」といったものが挙げられることが明らかになった。

以上の知見からもわかるように、多くの学生は紙芝居作成活動を通して、教育思想家についての理解を十分に深めることができている、そうした活動を肯定的に捉えている。ペア単位で学習に取り組み、紙芝居を作成するだけではなく、それを発表するところまで行うことで、自分自身はもちろん、他の学生に伝えるためには、どのような構成・説明をすればよいのかまで考える。そうした過程があるからこそ、教育思想家についての理解が深まっているのだと考えられる。こうしたことを踏まえれば、教育思想家についての理解を深めるという点において、紙芝居作成活動は一定の意義を有しているといえる。さらに、紙芝居作成活動は、単に知識を獲得するだけではなく、将来保育者・教育者を目指す学生にとって他者にわかりやすく伝える経験を積む機会にもなりうるという意味で教育的意義は大きいといえる。

一方で、紙芝居作成活動を肯定的に評価しつつも、課題を指摘する学生も一部存在した点は留意すべきであろう。紙芝居の構成やイラスト作成に時間を要するため、教育思想それ自体の理解を深める時間が十分に確保できない場合がある。その結果、教育思想家についての理解が不十分となる可能性がある。実際、「紙芝居のイラストや台本を決めるのが大変で、教育思想家について調べる時間よりも紙芝居の構成を考えている時間のほうが長かった気がします」という指摘もみられた。教育思想家についての理解が不十分になる可能性があることを踏まえれば、ペア単位ではなくグループ単位(3名程度)での活動とし、紙芝居の作成に係る負担を軽減することも必要だと考えられる。さらに、紙芝居の作成に関わる負担を軽減するという意味では、今後はデジタル紙芝居の作成なども検討の余地がある。学生の負担を軽減し、教育思想家についての理解を十分に深めることができるような実践のあり方を検討していくことが求められているといえる。

## 注

- 1) 藤井・上地・御代田(2018)の「思想家のとりあげ方について言えば、受講する学生が取得を予定する免許種や学校種に応じて、内容の選択や扱う思想内容の吟味が求められることは言うまでもない」(p.18)という指摘を踏まえれば、今後は、学生の進路という観点から、紙芝居作成活動で取り上げる教育思想家を選定していく必要があると考える。
- 2) 本稿で掲載している写真は、すべて対象となる学生本人から、研究目的での論文掲載について書面にて同意を得ている。
- 3) 「全く深まらなかった」という回答はなかったため、図には表記していない。
- 4) 「あまり適切だと思わない」という回答はなかったため、図には表記していない。

## 参考文献

- 藤井基貴・上地香杜・御代田桜子(2018)「教職科目「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」における「代表的な教育家」についての計量書誌分析」『静岡大学教育実践総合センター紀要』27, pp.10-21.
- 伊住継行・田邊良祐(2020)「教職科目「教育の思想と原理」の授業改善に関する実践的研究」『環太平洋大学研究紀要』16, pp.139-146.
- 渡邊言美(2016)「「桃太郎」を用いた「教育学概論」授業実践」『就実論叢』45, pp.263-274.